

帳簿締め切りと 損益勘定の仕組みガイド



※当資料に従うことで、法令違反がないことを保証する資料ではありません。
※あくまで参考としてご利用いただくことを想定している資料です。実際の制度内容は国の資料等をご確認ください。
※当資料は、2026年1月時点の内容となっております。最新の情報は国の資料等をご確認ください。

帳簿締め切りと損益勘定の仕組みガイド

帳簿締め切りの概要と目的

帳簿締め切りとは、決算期に当期の記入と次期の記入を区別するために、各勘定の残高を確定・整理する作業です。

目的

- ・貸借対照表により、1年間の財務状態を把握する。
- ・損益計算書により、1年間の事業成績（利益・損失）を確認する。

項目の扱い

収益・費用：経営成績を表すため、次期は0から開始。

資産・負債・純資産：財政状態を表すため、次期へ残高を繰り越す。

帳簿締め切りと損益勘定の仕組みガイド

帳簿締め切りの2つの手法

実務では主に、資産・負債・純資産を仕訳帳を経由せず締め切る「英米式」が一般的に使われます。

手法	特徴	備考
英米式	収益・費用は損益振替、他は「次期繰越」と記入	実務で一般的
大陸式	すべての勘定で振替仕訳を行う	手間がかかるため稀

帳簿締め切りの4ステップ

ステップ1：損益振替

収益・費用の各勘定残高を「損益」勘定に振り替え、各科目の残高を0にします。

・（例）売上700円の場合：借方「売上 700」 / 貸方「損益 700」

・（例）仕入500円の場合：借方「損益 500」 / 貸方「仕入 500」

帳簿締め切りと損益勘定の仕組みガイド

帳簿締め切りの4ステップ

ステップ2：資本振替

損益勘定の差額（利益または損失）を「繰越利益剰余金」勘定へ振り替えます。

ケース	特徴
当期純利益（例：50万円）	損益 500,000 / 繰越利益剰余金 500,000
当期純損失（例：4万円）	繰越利益剰余金 40,000 / 損益 40,000

ステップ3：勘定の締め切り

- ・収益・費用：振替により貸借が一致。二重線を引いて終了。
- ・資産・負債・純資産：差額を「次期繰越」として記入し、貸借を一致させて締め切る。

帳簿締め切りと損益勘定の仕組みガイド

帳簿締め切りの4ステップ

ステップ4：繰越試算表の作成

すべての勘定を締め切った後、次期へ繰り越す金額（資産・負債・純資産）を一覧にまとめ、貸借が一致するかを確認します。

【繰越試算表のイメージ】各勘定の「前期からの繰越残高」を転記し、合計金額が一致することを確認します。

借方	勘定科目	貸方
40,000	現金	-
200,000	建物	-
-	買掛金	20,000
-	繰越利益剰余金	100,000

【締め切り後の流れ】帳簿の締め切りが完了したら、決算の総仕上げとして以下の書類を作成します。

1.損益計算書

2.貸借対照表

3.その他財務諸表

これらの一連の作業により、正確な決算報告が可能となります。